

# 神仏に関するもの

## 眞勝寺

《勢至堂》

勢至堂には眞勝寺という寺があった。

勢至堂は天文六年、芦名盛氏が大沼郡西方の地頭、赤目越中、同郡滝谷地頭、八田四郎兵衛に命じて、大山を開いて関を設けた。月輪、更科、西方の村民が移り住んで村となった。

のちに耶麻郡堂島村から勢至の尊像を移して、一村の守りとして、村の名を勢至堂とした。勢至菩薩を祀った堂を光風堂と呼ぶ。寺のできた年代は分らないが、勢至山蓮華院眞勝寺といった。

眞言宗新義派に属して、梓衝荒鹿山長楽寺の末寺で、本尊は阿弥陀如来であった。

本居宣長の弟子で歌人、泉園がこの寺に泊まり、夜たゞふる雨の音のみまくらにて

明けゆくまでのともしびもなし

と歌っている。



道參堂風光